



PEOPLE OF KOBE 〈5〉

文・野口武彦 ▶ エスター・F・ニュートンさん  
〈神戸大学文学部助教授〉

# 海と恋とヨット

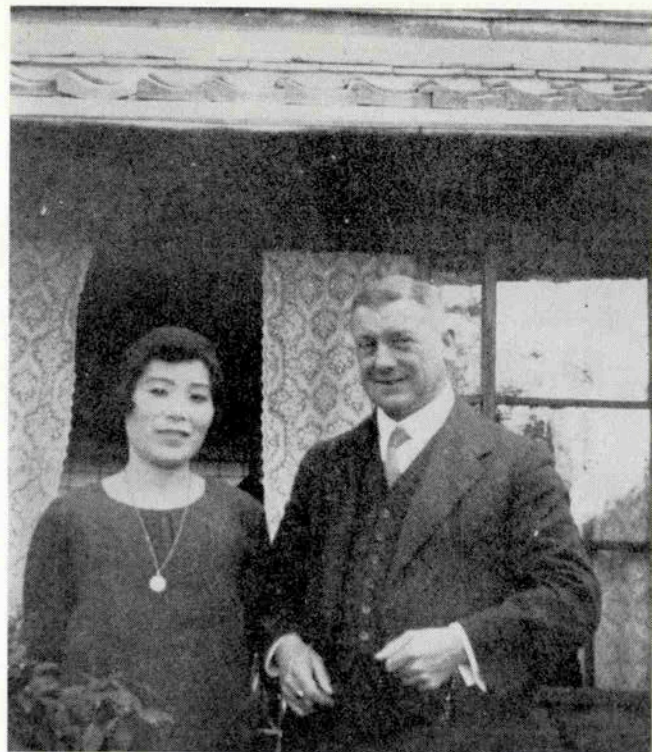
神戸の国際的ロマンス

ブチック「エスター・ニュートン」経営者

エスター・F・ニュートンさん

トア・ロードに高級婦人服店「エスター・ニュートン」を経営するエスター・ふく・ニュートンさん。この女性にひとめ会ったら、だれでもそのみずみずしい若さに感嘆せずにはいられないだろう。明治二十三年生まれの当年とって八十歳。その年齢にしては若く見えるなどというのではない。肌の若さ、表情の若さ、気の若さ。そして何よりも、一昔前の神戸を語る抜群の記憶力がエスターさんからほとんど永遠の若さというに近いものを感ぜさせるのである。

六甲の山腹に真夏の陽光がまぶしく反射し、浜には波紋のさざなみが黄金色の模様をえがく。白帆をいっぱいにくらませて疾走するヨット。そしてその上では、口髭をたくわえた謹厳な表情のうちにもお国ぶりのユーモアをたたえた英国紳士が舵を取り、そのかたわらに楚々

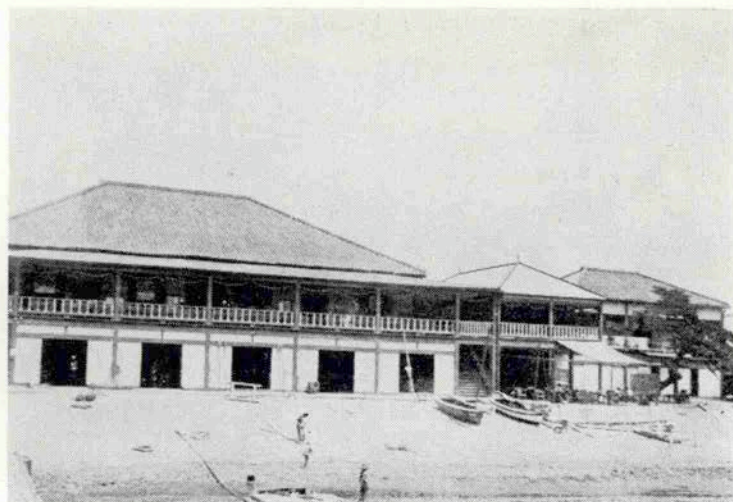


ご主人といっしょに六甲の自宅で (35才頃)

と可憐な、しかも適宜にグラマラスな日本女性が寄り添っていた。——もちろんこれは、いまを去ること五十年の昔、神戸にまだほんとうの海があり、絵にかいたような白砂青松、海がまだ埋立地も工場排水も知らなかった時代の話である。そしてこの順風満帆、青春のよろこびを載せて快走するヨット上の点景人物こそ、今日の主人公であるエスターさんとその故夫君アーサー氏の姿にほかならない。エスター・ふくさんは、和歌山県日高郡の生まれ。ちなみにエスターとはふくさんのクリスチャン・ネームである。若くして、日露戦争の頃から下山手でホテルを経営していたという叔母さんをたよって神戸に出る。時代はちょうど第一次世界大戦の前後、外交と交易の発展が、開港後まだ日の浅かった神戸の町をいっそう国際都市らしくしていた頃のことである。たとえばいまの国香通りに、二頭立ての馬車を走らせるフランス人経営の馬車会社があったという時代の話。その馬車屋さんの夫人のエレナ某の紹介で、二十代初めのエスターさんの前に出現したひとりの英国人があった。上海・インドを股にかけてウールの生地をあきなう貿易商のアーサー・W・ニュートン氏。歴としたロンドン生まれのこの紳士は、家系をたずねればかの万有引力の発見者、アイザック・ニュートンの血統につながるとい

う。名門の末裔に配するに佳人をもつてすれば、そこに一篇のロマン스가生まれまいという法はない。二人のあいだに始まった交際は、すぐさま十八歳年上のアーサー氏を熱烈な求婚者に変える。ひ





ニュートンさんご夫妻が青春の日々を楽しんだ敏馬のポートハウス

とはたとえば新開地の朝日会館で当時三十銭の特等席（念のためにいえば、普通席は五銭だったとのこと）で連続活劇に打ち興する二人の姿を見かけただろうし、昔の阪神電車の終点の滝道駅界隈で西洋料理店をくぐる二人を目撃しただろう。しかし、そうした交際ならともかく、それが国際結婚にまで発展するとなると、一家はこぞってこれに反対だった。エスターさんの義兄にあたる某弁護士、この人物はさんぬる極東国際裁判にも活躍したと聞くが、その義兄さんさえアーサー氏との結婚には強硬に反対した。エスターさんの方でも負けてはいなかった。生まれは清姫の伝説で名高い日高川、ということがこの場合関係あるのかどうかは知らないが、ともかく二人は

周囲の反対を押しきって強引にいつしよに暮しはじめた。いまはやりの同棲生活というやつハシリである。しかし、現代からは想像を絶する偏見が支配していた時代のことだ。エスターさんがどれだけの精神的重圧に耐えねばならなかったかは、思い半ばに過ぎるというものだろう。生まれてこのかた虚弱体質で神経質で、ほとんど病的に繊細で、いったいこの娘はいくつまで生きられるのかしら、と一家中の心配のたねだった氣質が、この試練ですっかり癒ってしまったとエスターさんはいう。

二人の熱意がついに家族にみとめられる日がきた。アーサー氏は、求婚相手の実家が要求するきびしい結婚条件をすべて受諾。かくして両人はめでたく英国領事館で挙式という運びになる。ときにエスターさん、芳紀まさに二十四歳。ことは大正初年に係る。それからエスターさんが五十三歳で夫君を失われるまで、人もうらやむ琴瑟相和の生活がくりひろげられることになるわけである。

アーサー氏の仕事は、毎年十月から四月までは遠く上海・インドに赴いて生地との約定を取りつけ、夏場は東洋汽船会社の二階にオフィスを構えて商品の輸入にあたるといったものであったという。だから、エスターさんの思い出の中にはいつも夏がある。開港当時から、在留外国人専用だった敏馬の砂浜。いまは沖に広大な摩耶埠頭の埋立地がひろがって見る影もなくなった海岸には、ポートハウスとヨットクラブがあった。人も知るように、イギリス人にとってスポーツとは見て楽しむものではなくて、みずからするところのものである。愛妻エスターさんを載せたアーサー氏のヨットは、帆いっぱい風に受け、波頭を切って進む。へさを洗うさわやかな潮のしぶき。気持よく頬をなでる海風。雄渾に湧きあがる白い夏雲。めざす青木の浜はすでに行く手に輝いている。——いまでも船が好きで好きでたまらず、豪華客船に乗りこんでの遠洋航海を夢見ているというエスターさんは、思い出の中の永遠の「夏」の回想に眼を細める。



▲現在のニュートンさん（トアロードのお店で）



▲当時では珍しい洋装で（27才）



▲30才頃

そろそろ婦人服店「エスター・ニュートン」に話をうつす順番である。意外なことには、いまから四十二年前にトア・ロードに店を開いたとき、エスターさんは洋装にも服飾にもまったく素人であったという。なにしろ町を洋装で歩くと、ひとがぞろぞろ後をついてきたという時代である。いかに神戸が海外ファッションの窓口として立地条件に恵まれていたとはいえ、いま老舗を誇るこの店の下地が、どうして若奥様の趣味仕事からかたちづくられることができたのか。じつはその陰にも、故夫君アーサー氏のこまやかな愛情があった。

ようやくかちとった幸福な結婚生活は、エスターさんからそれまでのはりつめた気力を奪い、またぞろもとの虚弱体質に戻ってしまった。肺炎カタルに加えて神経衰弱。そこでアーサー氏の考えついたのが一種の逆療法だった。心身のよわさを克服するために何か仕事をはじめ。あたかもよし、御主人の商売柄、良質のウールが入手できる。折よく、輸入服地の老舗が売りに出た。腕のよい仕立師を高級で雇い入れた。アーサー氏としては、当初は夫人の道楽として一回こっきりの出資のつもりだったらしいが、これが思いのほか軌道に乗った。はるばる東京から、華族さまの元殿様という客がつくまでになったのである。とはいえエスターさん、店に来ていばる客があるたびにいちいち腹を立て、もう商売をやめるといつて泣いたというから、相当わがままな女主人だったにちがいない。

「エスター・ニュートン」が開店した当時のトア・ロードは、神戸の町の中でも特にエキゾチックな雰囲気を持たせただけの一劃だったという。エスターさんの現居邸とその周辺だけをわずかに残して、空襲で炎上してしまったこの街区の、あの角にはモロゾフの店、佐治というシャツ屋、桜井というコルセット専門店、カリムというロシアの洋服屋……と、エスターさんの衰えぬ記憶力は、往古の町並みを銅板画のように復元する。そして何よりも惜しまれるのは、煉瓦作りの美しい英国風の教



会。ましてや、ピアノとオルガンの名手だったというアーサー氏が、日曜日ごとにオルガンを奏でたという教会だったとあれば、その追憶もひとしおだろう。かつてのトア・ロードは、また亡命ロシア人の多い町でもあった。そして神戸の市民たちにとっては、夕食後の夜景をたのしむ散歩がこの町の名物だったという。遠い記憶のうちに点滅するはなやかなイルミネーション。

しかし、第二次世界大戦の勃発は、こうした二人の生活を一転して苦難のどん底に叩き落した。鬼畜米英なる標語が本気に叫ばれた時代である。ドイツ人や白系ロシア人とちがって、まぎれもない交戦国の籍を持った、当時の言葉でいえば敵国人のアーサー氏が、もしも言語に絶する迫害を受けずにすんだとしたら、それは過去半世紀にわたって海彼に向ってひらかれつづけてきた神戸の土地柄のせいだった。いや、事実として国家からの迫害

はあった。戦争中、重い心臓病にかかって動けなくなっていたアーサー氏と、その英国籍の妻であるエスター・ふくさんとは、敵国人として県外に出る自由を剥脱される。同じ理由で、食糧の配給も給付も日まじに制限されなくてはならなかった。エスターさん持ち前の負けじ魂が発揮されるのは、こんな逆境のさなかである。エスターさんは禁足をやぶって敢然と單身県外に買出しに出かけ、病床の夫君に食糧を持って帰る。そんなエスターさんの姿に重病の床に横たわってもなおユーモアを失わなかったアーサー氏は、妻の手をとって感謝したという。身体のかかないアーサー氏のためには、頑丈な煉瓦作りの防空壕が堀られてい



若き日の思い出を話すニュートンさんと筆者（トアロードの自宅で）

た。そして神戸一円を灰燼に帰した空襲の災火から、ニュートン邸が奇蹟的にまぬがれたのも、あるいはエスターさんの献身に天が感じたからであつたらうか。昭和二十二年一月二十一日、暗い戦争の歳月を生きのびたアーサー氏は、妻の看護に感謝しながら世を去った。

服装には口やかましいイギリス紳士だった故夫君の薫陶よろしく、結婚してすぐ洋装の生活をはじめたエスターさんは、いまだに外出時には帽子を欠かしたことのないモダンな女性である。長年夫君にかしずかれたせいかレディ・ファストがいやみなく身について、いまでも日本の男尊女卑の習慣が気に入らないという。

新婚当時は毎晩アーサー氏が髪を梳いてくれたという楽しいおのろけ。家庭では日英両国語がチャンボンで、たとえば夫婦の痴話喧嘩もアーサー民のゴモットモデスで妻が吹き出してケリがついたという思い出話。そしておいしい紅茶の淹れ方を得々と伝授してくれるエスターさんには、どこやら幼女の無邪気さがただよっている。この女性にはまさしく喜寿童女の呼び名がふさわしい。いや、間もなく米寿童女になり、やがては白寿童女としていよいよ若やいでゆくにちがいない。わたしたちがニュートン邸を辞去するとき、エスターさんは客船で食事時間を知らせるというチャイムを鳴らしてみせて、楽しげなところと笑った。

# 世界の福祉施設

欧米の心身障害者を訪ねて

橋本 明著 〈カラー8ページ、本文320ページ、定価 1000円〉

送料 200円



●福祉時代の幕開けです。あなたも一冊ぜひどうぞ！

## 主な内容

- 神戸からシアトルへ
- クライシス・クリニック
- グッドウィル・インダストリーズ
- 里親発見活動
- フォースター・グランドペアレント
- ファースト・アベニュー・サービスセンター
- ボランティア・ビュロー
- 病院におけるボランティア活動
- レニア・スクール
- アメリカのグループホーム
- 社会福祉とPR活動
- 砂漠の中の老人の町
- ボーイズ・タウン
- パーキンス盲学校
- スポック博士の子供博物館
- アビリティーズ
- ロンドンのバーナードホーム
- 奇蹟の町・ルルドを訪ねて
- コペンハーゲンでの老人の町
- ベテラルー西ドイツの障害者の町（ドイツ）
- ヘット・ドルプ——未来を拓くオランダのコロニー（オランダ）

各書店で好評発売中！

振替口座 神戸四五一九六

お申込みは月刊「神戸っ子」編集部まで。神戸市生田区東町113の1 大神ビル8F TEL(331)2246



# ニースから民族舞踊 団がやってくる！

五月一三日、「ラ・チアマダニッサルダ」という、ニース地方の伝統的な民族舞踊団40名が神戸にやってくる。

これは昨年十一月、ジャック・メド・ニース市長さんが来神した時、お祭りを通してニースと神戸との友好をすすめようと話し合い、その第一歩として今年の二月に神戸新聞社が親善使節として兵庫県美方郡温泉町の傘踊りグループ、鉄砲光三郎、望月美佐グループなどをニースカーニバルへ派遣したのをキッカケに、今度の第四回神戸まつりに神戸市と神戸新聞社がこの舞踊団を招いたもの。「ラ・チアマダニッサルダ」は、ヨーロッパ、ソ連、中近東などの大きなお祭りには参加しているが、東洋へは初めてで、もちろん日本へは初めての来日である。

人口40万のニースの町は、カーニバルの期間中は世界中から観光客が訪れ、百万以上の人で埋まる。カーニバルの規模の大きさでも世界的に知られ、ヨーロッパ各国のお祭りのグループがパレードに参加し、二週間のカーニバルの期間中、コートダジュールのニースの町はカラフルな色彩と興奮に渦まぐ。

紺碧の地中海に望むニースからやってくるこの舞踊団は、五月十七、十八、十九、二〇日と神戸に滞在し、神戸まつりには中央祭典他、各地区の行事に参加するほか市民との交歓が数多く計画されている。

「ラ・チアマダニッサルダ」の神戸まつりへの参加は、国際色豊かな神戸のまつりを一層盛りあげ、今年のまつりの最大の呼び物になるだろう。



写真 右・左上ニースカーニバルの美女たち。左下カーニバルに出演した温泉町の傘おどり（神戸新聞提供）

## 49時間、お疲れさま

山陽電鉄月見山駅。四月一日午後八時二十五分——。ブラットホームにジーンズ姿の学生らしい三人が上って来た。少し疲れた感じで、別々にベンチに腰を降ろす。

「疲れた? そうでもない。慣れてるし(徹マンで)。」

「眠れた? ウーン、子守唄ではなかったなあ……。」

「結果として? 面白かった。また、やって欲しい。」

ラジオ関西の開局二十二周年を記念して、三月三十日(土)午後七時から四月一日(月)午後八時まで、四十九時間ぶっ通しの題して「四十九時間超ワイドコンサート」が、ラジオ関西サウンドギャラリ(「SOUNDS」)にて開催された。「よい音楽を聴取者へ」をモットーとするいかにもラジ関らしい企画であった。

開催に先立って四十九時間缶詰めで頑張るチャレンジャーを一般から募集。結局四十三名が挑戦した。挑戦者は朝食の各一時間以外には絶対に外へ出られぬという厳しいもの。また、途中でいなくなってもチェックできるように随時点呼をとる。それも代返が利かぬように一々サインをして貰い、入場の際のサインと一致しないとダメという筆跡鑑定法。警察なみたねえ。

4チャンネルのレコードコンサート、生演奏、公開録音に、C & W、ヒットパレード、ジャズと盛り沢山の内容。勿論、「春を呼ぶ特別電話リクエスト」もあった。

結果、三十一名が無事合格。S社の七万円もするカセットコーダーを筆頭に色々な賞品が抽選で渡された。

体力旺盛な年頃の挑戦者に比べて、一番疲れたのはお年を召した(?)プロデューサー。ご苦労さまでした。



▲「聞いて」済んで電リクにて49時間の奪戦ぶりを報告しているのです

▲ナターシャセブンがやっている

▲よく頑張りましたね。ハイ、賞品をどうぞ





الزكريوي محمد

“ゼクリウイ・シー・モハメッド”（右から左へ）

# ボク日本大好き！

☆モロッコからやってきたシー・モハメッド君

モロッコのマラケッシュから珍しいお客様がやってきた。その名は、ゼクリウイ・シー・モハメッド君（20才）。二月十日に来日して以来、鴨子ヶ原の中西勝画伯宅に住み込んで、「何でも見てやろう」のモロッコ版ばかりに一人で日本の各地を歩きまわり、おぼえたてのカタコトの日本語で愛嬌をふりまき、もっかん人気上昇中。「ジョージ・チャキリスに似てるわ!」という女の子の噂もチラホラ。

そもそも中西画伯とモハメッド君との出会いは遠くアフリカの砂漠の町マラケッシュに始まる。昨年、中西夫

妻がマラケッシュに六か月間滞在していた時の大家さんのご子息がこのモハメッド君で、日本にあこがれ、日本語を学んで今度の一人旅が実現したもの。

「日本人みんなよい人、親切です。日本の料理たくさんあって世界で一番きれい。私、何でも食べます。サケタバコ、豚以外はね」食べ物に好き嫌いはないそうで、鳥羽に行った時は生まれてこのかた食べたこともない貝をむさぼり食べたという。

彼は10人きょうだいの長男で、マラケッシュではお父さんといっしょに織物を織って暮している。「ジュラバ

ン」と「サラハーム」という衣裳を手にとつて「これ、みんな手で織りました。モロッコの物、みんな手づくりです。このジュウタン（5m四方ぐらい）も手づくりです」と嬉しそうだ。

三月十五日には「真珠の小箱」という番組に民族衣裳を着て初のテレビ出演。よほど嬉しかったらしく、「見ましたか?」「見ましたか?」と何度も尋ねる。「残念でした。見ませんでした」というと、「アッ、ソー」といかにも残念そうなり。

彼の一家は厳格な回教徒で、おじいさんは20年前にマラケッシュからサウジアラビアのメッカまで二年がかりで歩いて巡礼の旅をしている。最近交通の便もよくなったので、モハメッド君は歩く代りにチャッカリと飛行機で今年の一月にメッカ詣をすませてしまった。

モロッコ人は非常に音感がすぐれていて歌がうまいそうだが、モハメッド君はマラケッシュの歌のチャンピオ



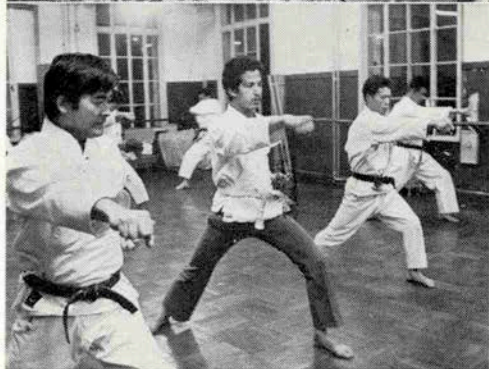
▲酒まつりで歌を  
唄うモハメッド君

歌、日本語で唄えます」という彼は、三月二十三日、オリエンタルホテルでの神戸っ子酒まつりで、「風のあるバルコニーで」という歌を日本語で堂々と唄いまくった。この歌は日本人が作詞したものを、彼が作曲し、アレンジしたものだそうである。

五月十日からは年一度のマラケッシュの音楽フェスティバルが始まり、人口二〇万のベルベル族のこの古い都は町全体が柵のない劇場になって湧きかえる。モロッコ人の魂が一番燃える時だ。五月十一日に三カ月間の滞在を終えて帰国するモハメッド君の日本語の歌声が、青く澄みきったマラケッシュの空にひととき高く響きわたる日も近いことだろう。



右端モハメッド君、左から三人目  
▲中西画伯（マラケッシュのモハメッド家で）



▲来神早々、空手の練習をする  
モハメッド君



▲新築なつた中西画伯の自宅前で

ンでもある。三才の時から歌を唄いはじめ、今ではアラブ諸国の歌を一二〇〇種類もおぼえているというからたまげてしまう。

「私、新しい歌よりも古い日本のリズム好き。三日ぐらいで日本の





明石町(写真上)から海岸通り1丁目(写真中上)2丁目(写真中下)3丁目(写真下)までにある古いが立派な建築物

●海岸通りは、かつては、港神戸の代表的大通りでした。港に面した町の顔でもあったわけです。船会社・外国銀行・船具会社などがずらりとつながって、そこには大通りの並木と明治の洋風建築のブルバーでもあったわけです。港が大きくなり、町と離れて、東へまた沖へと出ていってしまうにつれて、また昨今では、高速道路が頭上をおおいかぶさるにつれて、その機能と雰囲気は失われてしまいつつあります。しかし、この通りには、かつての繁栄を物語ってか、手のこんだ立派な建築物が並んでいます。残された一つ一つの立派な石張りの建築物をゆっくり眺めてみてください。ちょっと内へ入ってみると、吹抜けのあるどっしりとした階段ホールがひかえています。そこにはひとつひとつ、明治以来の港神戸の思い出が宿されています。まだ今なら、歩道をぐっと広くして、大きな街路樹を植える手だてさえ施してくればこれらの建築群と重なりあって、ここは再び堂々たる港神戸の代表的町並みとなってよみがえるでしょう。ほっておけば、古くさい味のない性格のない町として受け取られてしまって、これらのまだまだ使いつづけられるべき建築群が無造作に壊されてしまって、どこにでもあるバラバラのペンシルビル通りになってしまうでしょう。古いものはよくて、新しいものはすべて悪い、といっているのではないのですが、今建てられているようなバラバラの新しいものがあと20年、30年たったら、どうなると思いますか。その時100年も生きつづけてきた石の古い建築群と、鉄とコンクリートの30年組の違いがはっきりして、「しまった。もったいないことをした」という後悔になることうけあいなのです。(水谷顕介)

神戸のアーバンデザイン  
《新旧比較シリーズ》③

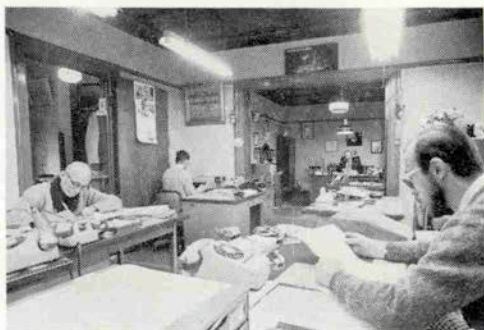
海岸通りの建築物

水谷顕介+チーム・UR

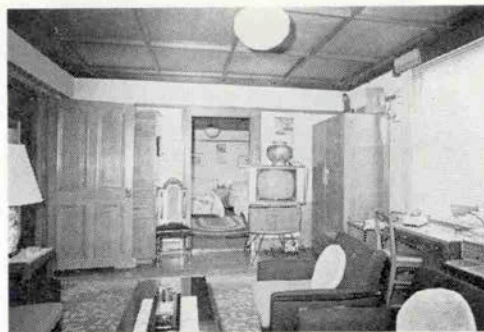
86

●神戸に住んで仕事をしている人ならば、古い異人館を仕事場にしたいな、と思いつけている人が、沢山いらっしゃるのだと思います。しかし今は、その可能性はどんどんなくなってしまっています。なにしろ、どんどん壊されてしまっているのですから、対象そのものが希少なのです。だから、それを実行できている人たちは、まったく幸福な人たちだ、といえるでしょう。異人館は適度に大きく、適度に大きな部屋があります。ここを仕事場にすることの良さは、まず全体としての自己確立性（アイデンティティ）があります。もし、それをたまたま貸借していたとしてもオフィスビルのような間借り感覚はありません。自分の仕事の個性を建物すみずみまで確立することが出来るので、サラリーマン的与えられ仕事でなく、精神的のびのび仕事を楽しむことができます。住いの情緒が基礎にあるため、仕事に通ってくる、まったく仕事のための仕事ということでなく、そこにどんと腰を落着けた自分の好きな仕事をのびのびと、ということになります。

●自己完結性は、ひいては、その伸展性にもつながります。一軒の家は、使いようで少々どうにでもなります。これも貸ビルの床とは違います。適度に大きな部屋で、数人ずつあるいは一人で仕事をするということは、精神のプライバシーとともに、仕事の個性をはぐくんでくれます。各部屋の仕事がバラバラになってしまわないための交流の場所として天井の高い居間——サロンが活躍してくれると思います。台所の活用も仕事によりき作用をもたらします。自分たちの好みのお茶、夜業の時の食事は、わびしい喫茶店のお茶や出前の食事より優れていることは、もちろんです。徹夜ともなれば、固い床のオフィスビルに比



▲ シップチャンドラーC商会異人館の1階の事務所



▲ 同上異人館の2階の客室

して、だんぜんいいことはわかっています。庭があることも、緑に疲れをいやし、休暇時の体の運動になじます。トイレ、これがまたオフィスビルの大洗面所や、ペンシルビルのみみちい便所に比べて、心休むこと……。●超高層オフィスビルの林立だけが、仕事→経済の発展のバロメーターでないことを、こういった仕事場の蓄積が教えてくれるでしょう。新しい異人館——こういった仕事場がもっと神戸にほしい、それが希少な異人館をはずれた人々の願いのはずです。（水谷順介）



☆神戸を福祉の町に(5)

上のマークは車イスで使用できる箇所にはられる国際シンボルマークです。



# あなたも里親家庭に

橋本 明

神戸駅前の湊川神社の西、神戸市社会福祉センターの二階に「家庭養護促進協会」という小さな民間の福祉機関がある。今から12年前の昭和37年に誕生した、日本では他に例のない民間の里親開拓機関で、神戸新聞や毎日新聞(大阪版)に「あなたの愛の手を」という記事を毎週一回掲載し、里親希望者を募っているのご存知の方も多いことと思う。

里親というのは、さまざまな原因で家庭生活をおくれない子供たちを、その親に代って別の家庭で養育する人たちのことをいうのだが、現在アメリカでは家庭に恵まれない児童の72%が、イギリスでは85%が里親家庭で育てられている。ところがわが国ではわずか18%にすぎない。欧米では「児童は家庭で育てるべきである」という原則にもとづき、「里親制度は、家庭を離れた児童にと

って、もっとも望ましい保護を与えるものである」とされ、また、ロレッタ・ベンダーの「最悪の家庭といえども最良の施設に優る」という家庭第一主義の思想に裏打ちされて里親委託が推進されてきたのだが、日本では従来児童福祉施設が児童養護の中で大きな位置を占め、里親開拓も児童相談所だけがその窓口であったりしたため、別表のように里親制度は伸び悩んでいる。

前述した「家庭養護促進協会」が発足して以来、昨年三月末までに大阪と神戸での里子委託数は八〇五人にものぼるのをもても、こうした民間の積極的な里親開拓機関がもつと多く日本の各地にあれば里親数もかならず伸びるものと思われる。

「しかし、里親の数だけが単純に増えればそれでいいというものじゃないんです。たとえば見方を変えれば、アメリカのように里親が増えるというのとはそれだけ子供を育てられない崩壊家庭が増えているということにもなりますからね」と事務局長の伊藤友宣さんはいう。

ところで、神戸市児童相談所の里親委託ケースをみてみると、里親委託の原因として、未婚の母、遺棄児、父母就労、父母病氣、父母離婚、母家出、家庭不和、母死亡などとなっており、未婚の母や遺棄ケースが多くなっている。一方、里親希望者のうち80%は「子



神戸新聞に毎週一回掲載されている「あなたの愛の手を」の里親募集記事

年次別里親の状況（各年年度末現在）

	登録里親数	児童を委託されている里親数	委託児童数
昭和26年	10,013	6,106	6,796
27	11,740	6,840	7,536
28	13,288	7,271	8,041
29	14,948	7,816	8,633
30	16,827	8,370	9,169
31	17,836	8,479	9,348
32	18,498	8,537	9,478
33	18,696	8,526	9,489
34	18,914	8,095	8,936
35	19,022	7,751	8,737
36	18,985	7,545	8,664
37	19,275	7,332	8,337
38	18,773	6,980	7,952
39	18,593	6,567	7,420
40	18,230	6,090	6,909
41	17,076	5,742	6,511
42	16,115	5,219	5,977
43	15,660	4,786	5,501
44	14,907	4,419	5,054
45	4,807	4,328	4,975

（注）厚生省報告例より。なお、45年度の数字は6月末現在。

上の表は年次別にみた里親の状況であるが、昭和33年を頂点として、児童を委託されている里親および委託児童の数は減少の傾向にあり、45年には5000人を割っている。これは、登録里親の絶対数の減少もさることながら、登録里親のうちで児童を委託されていない里親に問題があると思われる。

りも壊れない家庭をつくることの方がより大切なのではないだろうか。

社会福祉の考え方が「治療から予防へ」と変りつつあるのも、多種多様に複雑に絡みあった現代社会の問題を単なる対症療法だけでは解決しえなくなってきたからであり、教育・文化・住宅・環境などのあらゆる分野から総合的に考えていかねばならなくなってきたからだ。里親保護一つをとりあげても、それは現代社会のあらゆる問題につながっていく。

供がないから」という理由で里子を求めており、その大部分は養子縁組を前提にして申込んでいる。

「貧しくて子供を育てられないから」というような単純な理由でなくて、豊かな時代の屈折した人間関係が子供をはじき出しているようですね。子供がなくて冷えた夫婦関係を、里子を迎えることによって癒していこうというケースもあり、現代の人と人とのつながりの弱さというものを考えさせられます。児童の問題にしてもほとんどは親の問題なんですよ」

伊藤さんは今の仕事を本当によりよい充実したものにしていくなためには、どうしてもこの「親」の問題をもっとよく考え、親のための相談機関を充実していくことがどうしても必要だと強調する。

今のような社会では人間の絆というものはますますもろいものになり、家庭はどんどん壊れていってしまふ。そこからこぼれおちた子供たちをすくいあげて里親に委託していたのではとうていおっつかなくなってくるし、いつまでたっても要保護児童は減ってはこない。それよ

ものにしようとして、東京都ではこのほど「養育家庭センター」を設け、里親の開拓に力を入れはじめている。これは最近になって親の離婚や家出、未婚の母などの急増のため、親の手もとで育てられない乳幼児が増えてきたが、こうした小さな乳幼児たちは、大きな施設で集団で育てるよりも、できるだけ一般の家庭で育てる方がよいという考え方からこのようなセンターが設けられるようになったようであるが、お役所がこのように里親の開拓に力を入れるようになったのは遅ればせながら嬉しいことだ。

家庭に恵まれない子供たちを引きとって、愛情と熱意をもって親代りに育ててくれる家庭を増やしていくことは、さまざまな問題はあるにせよ、施設一辺倒の日本の児童福祉対策に新しい方向づけを与えるものとして大いに力を入れてほしいものである。

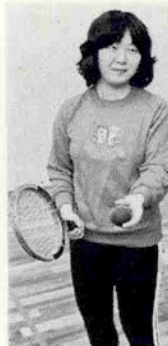


# 神戸遊戯誌 127

## ★壁を使って楽しむ 最新式スポーツ

ハンド・ボールといっても、このハンド・ボール(フォア・ウォールズ=四壁式)はこの欄の第二百二十三、四回で紹介したドイツ製の同名のものとは違い、一人か二人ずつだけで全く違う方法で対抗ゲームを行なう、わが国では全く新しい球戯である。生まれはアイルランドでその後アメリカへ輸入され、一九〇九年以後盛んになり、現在アメリカの国技といわれるぐらいはやっているが、日本へ輸入されたのはおそらく戦後で、というのはハッキリしたことがわからぬからで、西脇 要氏(神戸YMCA体育主事)の話によると、現在のように日本で室内球戯となったのは十年前からだ、それ以前かなり古くから戸外で行なわれていた形跡があるからだ——という。ゴルフの球よりひと回り大きいゴム製の硬質の球を使

つてラケットかグローブ(羊皮)でゲームをする点はやっとテニスに似たところがあるが、壁を使う点が独特である。なお、ラケットはテニスのものより柄が短かい。また、この球戯には審判がいなくてもテニスやピンポンと違っていい。これは瞬間でゲームがきまるケースが圧倒的に多いからだ、そのため罰則等もプレーヤー自身が判定しなければならず常に相手方に礼を失しない心掛けが必要となる。だから当然、他の球戯以上に公平性と社会性と同時に自尊心が大切にされている。次にまだ多くの人々には知られていないと思われるこの新しい球戯のあらましを紹介しよう。まずコートは一壁式と四壁式の二つがあるが、わが国をはじめ各国では現在四壁式が多い。四面に壁を持つこのコートの広さは長さ四六フィート、幅二二フィート、高さ二二フィートで床にはショートライン(前の壁とうしろの壁の間)とサブライン(ショートラインより五フィート前方)その他のラインが白ペンキで引かれている。四壁式



「サーブいくわよ!」

と佐々都司子さん

(上) 皮手袋をはめてまさしくハンドでボールを打つ

(中) 後の壁からくるボールに挑戦!

(下) 「ボールをよくみろよ」



神戸YMCA体育リ  
ーダー 草野 修さん



神戸YMCA体育主  
事 西脇 要さん



神戸YMCA体育リ  
ーダー 大山展弘さん

ハンド・ボール  
(フォア・ウォールズ)

青木重雄

も一壁式も試合のルールは同じで、共に一回のゲームは二点で三回戦を行ない、勝敗をきめる。まず、サーバーがサーブラインに立つてワンバウンドしたボールを前の壁に打ちつけ、レシーバーは同じくはね返ったそのボールをワンバウンドかノウバウンドで自分の思う壁へ打ちつける。以後は同様の壁を通じての打ち合いがつづけられる——つまり、テニスのいわゆるラリー戦がつづくわけだ。この場合サーブの球が規定ライン内の外に落ちたり、レシーバーがツウバウンドで打ち返したり、からだに当たっては失点。その他数多くのルールがあるが、この点についてはここでは記さない。くわしく御希聖の人は神戸YMCA（生田区加納町二丁目、電話二四一七二一〇番）の西脇主事あてに教示を求めているいただきたい。さて以上のようなやり方で試合の行なわれるハンドボールは常に激しい敏活さと速力、バランス、精確さと忍耐が要求されるところから一ゲーム（約十五分間）を終えるとすでに汗ビッシヨリ。ラリーは数回ぐらいが普通だが、好試合となるとこの連続で一試合（三ゲーム）が終わるとからだはヘトヘトになる。ボールが直接からだに当たると痛いほどだから練習でボールの扱いを充分マスターすると共に強力なパンチボールを会得することが必要である。だれでもすぐにおぼえられ、上手になるほど巧妙なプレイができるし、思うところにボールがさばけるようになつて心から楽しみつづプレイできるようにされるが、そのためには自分で練習を重ねること以外にうまいプレイヤーを常に見て彼らのすぐれた点を取り入れみずからの技術を磨くことも大切である。

前に書いたようにこのスポーツはわが国ではまだ新しい分野で現在正式のコートは東京YMCA体育館（一九六四年設置）と神戸YMCA体育館、KRAC（神戸外人クラブ）のわずか三つである。造築費が高つくことも一つの原因で採光、ボールのはね返りの完璧さを保証する壁や床、その他コートとしての完全無欠性が求められるため簡単には作れない。その点大流行のアメリカで

は全国各地にコートがあり、何十万人という男女ファンがこの競技を楽しんでいるが、瞬間的で激しい動作が必要なわりに中、高年者が多く、四十歳から六十歳代へかけてのファン数がめだつて多い。むしろ若い人々も多いが、慣れてこの球戯のダイゴ味がわかると年齢を越えた楽しみが味わえるためいつまでもつづけられるわけだ。若い人のプレイぶりがスピード本位、年長者がコントロール本位の差は当然あるが……。全米ハンドボール大会が年に一回あるのをはじめ各地域ごとの地方大会が多いのも隆盛ぶりを反映している。

イギリスでもチャンピオンシップ制度があり、アメリカについて盛んだが、その他ニュージーランド、フィリピン、オーストラリアなどで行なわれている。だが、まだテニスやビンボンのような世界的な組織がなく、今後の課題として残されている。

「公式のコートを二つも持つわが神戸は四壁式ハンドボールのメッカともいってよいわけですが、いま一つ宣伝が不足のため神戸YMCAの現在のプレイヤーの数はわずかに十二、三名です。私と体育リーダーの草野修、大山展弘氏の三名を除くと一般のファンはわずか十名ほどで、年齢は小学校三年生から六十歳代までで女性数名。だが、みな熱心で一度やるとやめられぬと汗をビッシヨリかいてプレイしています。

短時間にスポーツの爽快な気分を味わえるのと、とくに心臓と肝臓のためによいのがこのゲームの特徴です。東京YMCAでもまだ百数十名ぐらいのファン数ですが、そのうち全国的にもふえてくると期待しています。神戸YMCAでは初心者のコーチは充分させてもらいますし、道具も貸しますし、コート使用料も四十五分間百円ですから、どしどし気軽にプレイにやってみてください」

とは、西脇氏の弁である。





■初夏に旅出つロマンのキャンベラ号夢の船旅

## 神戸っ子'74地中海クルーズ募集!

船キチの神戸っ子編集部が、アイデアをこらした地中海キャンベラ号の船旅と南欧・パリの旅。

今、ヨーロッパでは地中海の船旅に人気集中。ぜひぜひご参加下さい。楽しい船旅をご一緒に……。

1974年 ●エスコート……本誌／小泉美喜子

6月25日～7月13日 ¥520,000 定員15名

キャンベラ号の船室2人部屋シャワー付(船室により価格変化あり)

募集締切は、5月末日迄 早急にお申込み下さい。

日数	日	付	場	所	時	間	フライトNo.
1	6月25日	④	大 阪	発	18:30	(19:25)	J L 124 P. M. 5時集合
			東 京	発	21:45		A F 273 (エールフランス)
2	6月26日	⑧	パ	リ	着	06:30	(13:10) A F 527
			バルセロナ	着	14:40		キャンベラ号乗船
3	6月27日	⑨					＜船旅は9日間＞
4	6月28日	⑩	ナ	ボ	リ		
5	6月29日	⑪	エ	ル	バ		
6	6月30日	⑫	カンヌ・ニース				
7	7月1日	⑬					
8	7月2日	⑭	マ	ラ	ガ		
9	7月3日	⑮	美しいジブラルタル海峡を通過				
10	7月4日	⑯	ビ	ー	ゴ		キャンベラ号下船
11	7月5日	⑰	オ	ポ	ルト	発 12:20	T P 105
			リスボン	着	13:00		
12	7月6日	⑱	リスボン				
13	7月7日	⑲	リスボン	発	10:20		I B 078
			マドリッド	着	11:20		
14	7月8日	⑳	マドリッド・トレド				
15	7月9日	㉑	マドリッド	発	07:40		A F 510
			パ	リ	着	09:40	
16	7月10日	㉒	パ	リ			
17	7月11日	㉓	パ	リ			
18	7月12日	㉔	パ	リ	発	16:30	A F 274 (エールフランス)
19	7月13日	㉕	東 京	着	18:20	(20:40)	J L 129
			大 阪	着	21:35		

●お申込み・お問合せは

月刊 神戸っ子編集部

神戸市生田区東町113の1

大神ビル8F ☎331-2246

担 当 小泉美喜子 迄

## ドッドウェル トラベル サービス

神戸市葺合区磯上通8-9-6

〒651 (神戸明治生命ビル)

電話 神 戸 (251)0021番(大代表)

大阪市西区靱1丁目102

〒550 (辰巳ビル1階)

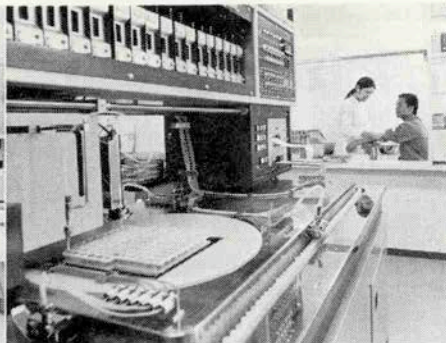
電話 大 阪 (443)8721番

# ★コンピューター・ドックシリーズ

〈7〉

## 年に一回は来ます

●5月のルポーター櫛 晴夫 (キヤンティ・マスター)



血液検査をうける櫛さん



三木院長が「軽い胃下垂に注意して」

八時起床。前夜の飲みすぎと睡眠不足で戸外の日差しが目に痛い。車をとばして丸山の健診センターへと急ぐ。午前九時到着。

美しい白亜の病院はまるでホテル。只違うのはロビーで待つ人々の何か不安そうな表情には矢張り病院らしい緊迫感がある。待つ程もなく検査が始まる。担当の看護婦サン達は手なれた感じでおだやかな印象が非常に良い。胃腹部検査のバリウムを飲んで全身を揺り動かしてレントゲン写真を撮られるのは矢張り良い気持ちではないが、最後に三木院長よりスライドで幼時に患った十二指腸カイトウの古い疵跡を見せられてさすがに、とうなづけた。

心配した眼底検査も異常なく、強いていえば胃下垂で食生活に気を付けるよう注意された。二十年、アルコールを飲みつづけてきた私にむしろ肝臓や腎臓障害がないなんて不思議で、でも年に一回は来ますと院長に約束して外へ出た時は午後一時過ぎ。初夏の太陽の中でおもわず深呼吸して明日へのための健康がどんなに大切なものかをつくづく感じた。

### ★3時間ドックとは？

「気軽に成人病健診を」と、兵庫県下ではじめてのコンピューターによる健康診断センターが、神戸市長田区丸山町3、丸山病院(三木徹院長)に昨年五月に完成。現代人にマッチしたスピーディなシステムが人気となつて、モレーツサラリーマンや、家族ぐるみの検診者が増えている。

健診は、血液、尿の検査。胸部X線、胃部X線。身長、体重、視力、血圧、眼圧の測定。心電図、心拍数解析、聴力、肺機能、眼底検査など六十六項目が全部自動的に進められ、コンピューターによつて二日かかったものが三時間ですむ。費用は二万八千円「三十五歳以上の人はぜひ年に一度うけましょう」と呼びかけている。

## 丸山病院 健診センター

神戸市長田区丸山町3丁目20

TEL 神戸078(642)1131(代)

午前9時～午後5時